

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 050	提案機関名 農業技術センター足柄地区事務所
要望問題名 ‘湘南ゴールド’に発生するさび果対策について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ‘湘南ゴールド’に発生するさび果は、減収の要因となっており、これまでの試験結果から炭疽病菌の感染と果実への日射がその原因として示唆され、日照を受けやすい外なり果で発症が多いことが分っている。また、内なり果はマンゼブ水和剤を9月及び10月散布することで、当病害を低下させる防除法として示唆されている。 しかしながら、当該農薬の10月散布は安全使用基準を踏まえると、‘湘南ゴールド’付近に収穫中及び収穫間近の品種がある場合は、飛散の恐れがあることから防除対策として推進していくことができない状況である。 そこで、これらの状況を踏まえた、マンゼブ水和剤に代わる農薬の検討をお願いしたい。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	神奈川県農業技術センター	担当部所	足柄地区事務所研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) かながわ特産品の生産に必要な農薬の実用化試験 新農薬実用化試験		
対応の内容等	利用可能期間に制約の大きいマンゼブ水和剤を初秋期に散布することは、ドリフトの観点から問題があると認識しています。 新剤を初めとする収穫前日数の短い数種の殺菌剤の秋期散布による‘湘南ゴールド’さび果被害軽減試験を上記の研究課題の中で実施します。こちらの試験の結果につきましては随時お繋ぎ致します。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			